

目 次

	頁	(項)
抄 録	(iii)	
招待論説	(vii)	
序 文	(ix)	
総 括	(xi)	
用語解説	G1	
1. 緒 論	1	(1)
1.1 背 景	1	(1)
1.2 この報告書の目標	3	(7)
1.3 対象とする読者	4	(12)
2. 状況の特徴付け	7	(15)
2.1 可能性のあるシナリオ	7	(15)
2.2 特 徴	9	(18)
2.3 計画立案	12	(30)
2.4 被 ば く	15	(40)
2.5 初期対応	18	(50)
2.6 対応の段階	19	(54)
2.7 関連付け	20	(58)
3. 放射線被ばくによって生じうる健康影響	23	(59)
3.1 生物学的健康影響	23	(59)
3.2 心理学的健康影響	26	(72)
4. 対応者の防護	29	(76)
4.1 職業上の防護のアプローチ	30	(80)
4.2 職業上の防護技術	32	(87)
5. 公衆の防護	35	(92)
5.1 救助段階 (即時行動)	35	(93)
5.2 救助段階 (緊急活動)	39	(104)
5.3 回復段階	44	(128)

(vi) 目 次

5.4 復旧段階	47 (138)
5.5 公衆防護のための線量規準の要約	51 (152)
5.6 一般消費財の汚染管理	52 (156)
5.7 特別な状況	57 (165)
6. 医学的介入	59 (169)
6.1 医学的治療の重要な要素	59 (169)
6.2 他の重要な医学的問題	60 (173)
7. 情報の伝達	63 (179)
付属書 A. 可能性のあるシナリオ	65 (A 1)
付属書 B. 医学的な問題	69 (B 1)
付属書 C. 心理学的な問題	83 (C 1)
参考文献	87

表

表2.1 悪意のある攻撃後の緊急段階, 被ばく経路, 防護活動	21
表3.1 放射線によって誘発される健康影響についての要約	26
表4.1 職業被ばくのためのガイダンス	32
表5.1 対策を実行するために勧告される回避可能線量	51
表5.2 長期被ばく状況における介入のために勧告された一般的規準	51
表5.3 勧告された規制除外レベル	53
表5.4 大量物資中の放射性核種の放射線規制	54
表5.5 食品添加物と汚染源委員会が改訂した食品中放射性核種のガイダンスレベル	54
表5.6 飲料水中の放射性核種のガイダンスレベル	55
表B.1 急性放射線症候群の前駆期	72
表B.2 急性全身被ばくの線量に依存する急性放射線症候群の最初の数日における リンパ球数の変化	71
表B.3 急性放射線症候群の潜伏期	73
表B.4 全身被ばく後の急性放射線症候群の重要段階の所見	73
表B.5 重症度による急性放射線症候群の主な治療法	74
表B.6 受けた線量に依存する皮膚傷害の臨床症状の発症時期	71